

+ 医知創造ラボ

親の運転、どうする？

高齢ドライバーの認知機能・安全装置・免許返納の見極め方

医知創造ラボ

監修：神経内科専門医 所要 約8分

親に、運転を やめさせるべき？

結論

「やめる/やめない」の二択ではありません。
正しく見極めれば、どちらも前向きに選べます。

- この動画でわかること **AGENDA**

5つの視点で、家族で考える

1 事故データの実像
免許人口あたりで見ると何が起きているか

2 やめどきのサイン
年齢ではなく危険な兆候と病気・薬

3 75歳の検査と対策
認知機能検査・運転技能検査を正しく知る

4 やめる前の安全対策
サポカー・後付け装置・補助の確認先

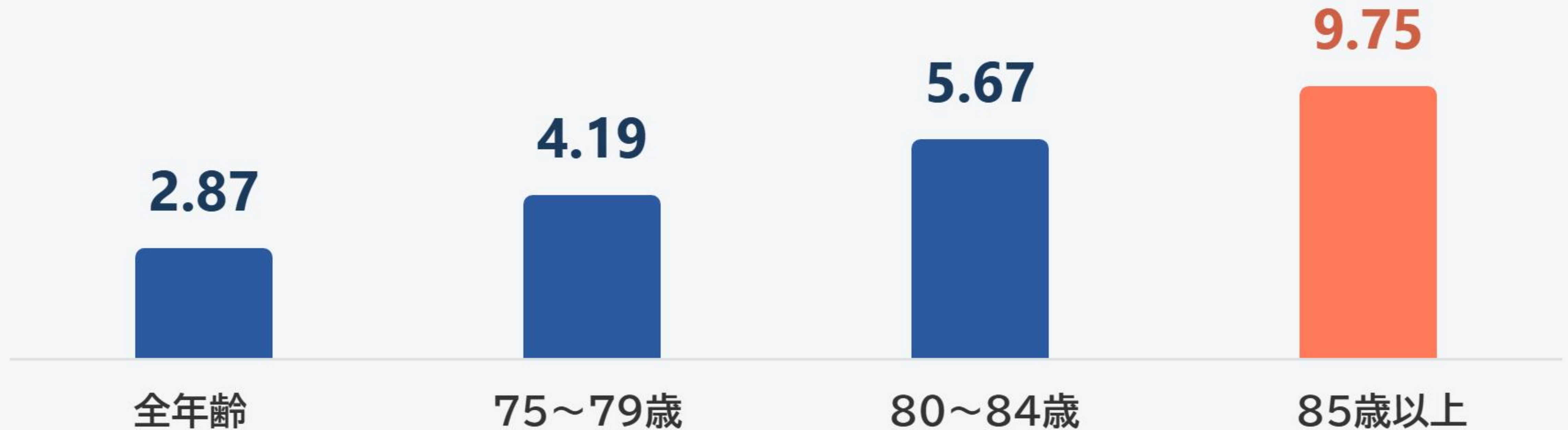
5 手放す選択と自動運転
自主返納・経歴証明書・現実的な展望

CHAPTER

01

高齢ドライバーの事故、
実際は？

年齢が上がるほど、事故率は上がる



免許人口10万人あたり死亡事故件数(2023年)。85歳以上は全年齢の約3.4倍。出典:内閣府 令和6年版 交通安全白書

危ないのは、高齢者だけ？

× 踏み間違い事故は、高齢者だけが起こす

○ 踏み間違いは若い世代にも多く、事故率はU字型。ただし高齢者は事故時に重症化しやすい

CHAPTER

02

「やめどき」は
年齢で決まらない

運転の危険なサイン 6つ

- ✓ 車のこすり傷が増えた
- ✓ 駐車でも何度もやり直す
- ✓ 慣れた道で迷うことがある
- ✓ 信号や標識を見落とす
- ✓ ブレーキとアクセルを踏み間違えかけた
- ✓ 運転が以前より荒くなった

年齢より大事なのは 「病気と薬」です

運転に影響するのは年齢そのものより、個別の医学的な要因。治療で改善できることもあります。

- ✓ 白内障・緑内障など目の病気
- ✓ 睡眠薬・抗ヒスタミン薬の眠気
- ✓ 糖尿病の治療中の低血糖
- ✗ てんかんなどの発作



気になる兆候は
かかりつけ医に相談

CHAPTER

03

75歳の壁

検査を正しく知る

70代前半と75歳以上の違い

更新時の年齢	高齢者講習	認知機能検査	運転技能検査
70～74歳	必要	不要	不要
75歳以上	必要	必須	違反歴がある人のみ

認知機能検査は2項目だけ

検査は「手がかり再生」と「時間の見当識」の2項目。合格ラインは総合点36点です。

古い情報に注意

「時計描画」は廃止され、「49点／76点」「3区分」は旧制度です。今は36点・2区分に変わっています。

- 落ちても即取消ではない STEP BY STEP

13

「おそれあり」その後の流れ



 家族で予習できます

手がかり再生のイラストは4パターン・計64種を警察庁が公式に無料公開。家族で目を通しておけます。

CHAPTER

04

やめる前に
できること

—

今の車にも 後付けできます

サポカーSは自動ブレーキと踏み間違い抑制を搭載。買い替えなくても対策できます。

- ✓ 後付け装置は国交省の性能認定品を選ぶ
- ✓ 本体3～5万円・工賃込みで4～9万円が目安
- ✓ 補助金は国は終了。自治体の窓口を確認
- ✗ 医知創造ラボ サポカー限定免許という折衷案もある



買い替え前に
後付けも選択肢

手放すなら、移動とセットで

2024年の自主返納は約42.8万件と5年ぶりに増加。返納者は運転経歴証明書を受けられます。

ここがポイント

運転をやめると外出が減り、認知機能の低下リスクも指摘されています。代替の移動手段とセットで考えましょう。自動運転レベル4は解禁済みですが、低速・限定エリアで、今すぐの解決策ではありません。

家族でできる5つのこと

01

サインを見守る

こすり傷・道迷い・踏み間違いかけなど、危険な兆候に気づく。

02

体と薬を見直す

目の病気・眠気
の出る薬・低血糖。かかりつけ医に相談する。

03

安全装置を活用

サポカーや国交省認定の後付け装置で事故を防ぐ。

04

腕を確認する

講習や同乗で、今の運転を客観的にチェックする。

05

やめるときは足とセツト

移動手段を用意してから、納得して手放す。

+ 医知創造ラボ

役に立ったら、応援お願いします

毎週、暮らしに役立つ健康の話をお届けしています



チャンネル登録



高評価



ご視聴にあたってのお願い

この動画は**一般的な情報提供**であり、診断・治療の
代わりにはなりません。

制度の詳細や個別の判断は**公的機関や医療機関に
ご確認ください。**